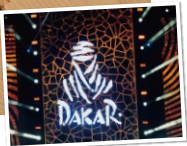


TEAM LAND CRUISER TOYOTA AUTO BODY

DAKAR RALLY 2024 REPORT





1 **ダ** **ダカールラリー**

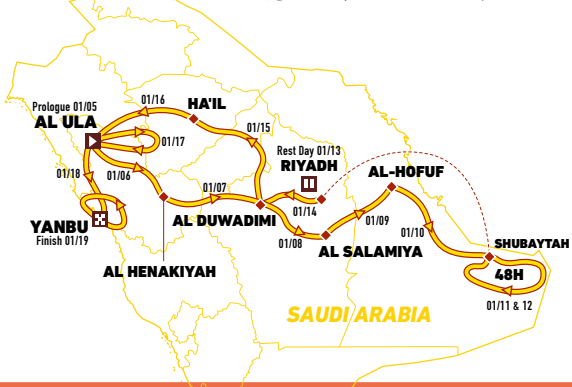
KEYWORD

カールラリーは、1978年にフランス人の冒険家が発案した自動車とバイクの競技。当初はフランスの首都・パリからセネガルの首都・ダカールをゴールにしていたことから「パリ・ダカールラリー」と呼ばれていました。その後、2009年から2019年は南米で開催され、2020年からはサウジアラビアに舞台を移しています。ダカールラリーは、砂漠や岩場のルートを2週間(総走行距離約8,000km)かけて走ります。全てのステージを走り切れるクルマが5割にも満たないことから、世界一過酷なラリーと呼ばれています。

2 **砂漠**

KEYWORD

2 024年のダカールラリーは、サウジアラビア北西部の「アル・ウラ」をスタートし、中央部を経て東部の「エンフティクオーター」と呼ばれるルブアルハリ砂漠を通過。西部の「ヤンブー」がゴールとなりました。険しい岩場もありますが、走行するステージの多くが砂漠。とくにルブアルハリ砂漠の砂はともやわらかく、越えるのが困難な砂丘が連続します。砂丘という緩やかな丘をイメージしますが、目の当たりにするとまさにそびえ立つ「壁」。多くの人が「こんな足場の悪い坂道をクルマで登れるのか?」と疑問に持つくらい場所です。砂丘の頂上を越えれば、クルマが前転してしまいそうな急坂が待っていることもあります。



ダ カールラリーでは、一面に砂丘が広がる場所や岩場など、明確な道があるわけではなく、事前に試走もできないため、どこを走ったらいいのか、どこへ向かえばいいのかわかりません。手掛かりになるのは競技開始15分前に配信されるロードブック。ただしロードブックには区間距離と方位、目標物が書かれているだけで、私たちがクルマを運転するときには日常的に使うカーナビのように詳しく教えてくれません。そこで重要になってくるのが、ドライバーに道案内をするコ・ドライバーの存在。コ・ドライバーはこのロードブックを読み解いて、ドライバーに進むべき道を指示します。道なき道を正確に進み、目的地までたどり着くためには、コ・ドライバーの経験とドライバーの信頼関係が必要なのです。

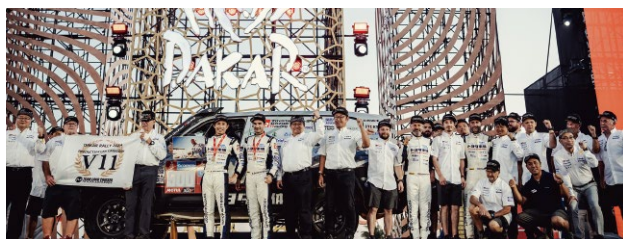
3 **道がない**

KEYWORD





ランドクルーザーは「どこへでも行き、生きて帰ってこられるクルマでなければならぬ」。その想いを胸にTLCは「全ステージ完全走破」を目指してダカールラリーに挑戦しつづけています。ダカールラリー2024では15日間、12ステージの戦いをランドクルーザー300GR SPORTのラリー車2台で戦い、市販車部門11連覇を達成!! しかし、喜びをかみしめるのもつかの間。TLCはその喜びを胸に、次のダカールラリーに向けてさらなる改善を始めます。この改善の繰り返しはモータースポーツを起点とするもつといいクルマづくりなのです。



全カテゴリ-428台					
73台	78台	47台	142台	78台	10台
四輪	SSV	トラック	二輪/クワッド	クラシック	MODIFICATION
改造	市販車	改造	市販車		
70台 3台					

市販車部門の難しさ

年々、ステージの難易度が増すダカールラリー。改造車は規則変更に合わせて改良、高性能化できるのに比べ、市販車部門に参戦するランクルは年々改良はできても、大幅な性能アップはベース車両のモデルチェンジ時に限られます。改造車の競技性を高めるためにステージは年々難しくなり、市販車には完走すら難しくなっています。

ダカールラリーには、クルマのタイプによってさまざまな部門が設けられています。トヨタ車体のラリーチーム「チームランドクルーザー・トヨタオートボデー(以下、TLC)」が1995年から一貫して参戦しているのは、ストックと呼ばれる市販車部門。この部門は、規則で安全装備などを変更しなければなりません。ラリーでは過酷な状況でもクルマを壊さずに走り切ることが求められるので、ベースとなる市販車の性能の高さが勝敗を左右します。実際にラリーを戦うのはTLCのメンバーですが、ラリー車の開発にはトヨタ車体、トヨタグループをはじめとする関連メーカーのエンジニアも数多く関わっています。市販車部門への挑戦は、TLCと市販車の開発チームが丸と丸の取り組みなのです。

6 完走

完全走破による成果

ランクルの限界を引き出す走りにより、クルマの消耗傾向や、弱点箇所が明確になりました。



車両セッティング違いによる成果

2台で異なる車両のセットアップにしたところ、消耗が進行しやすい部位の傾向に差が出る事が判明しました。



7 なぜ参戦するのか

トヨタは「道が人を鍛え、クルマを鍛える」という信念のもと、モータースポーツに参戦しています。なぜならそれが「もつといいクルマづくり」につながるから。ランドクルーザーの開発生産を担うトヨタ車体もその想いを受け継ぎ、ランドクルーザーでダカールラリーに参戦し、ラリーを通して起きてしまったトラブルや各部品の耐久性などを評価。その評価に基づき、各部を改善していくことで、そのノウハウを市販車にフィードバックしています。ダカールラリーへの参戦は、皆さんが乗るクルマをより良くしていくための実験場、とも言えるのです。

48Hクロノステージ

ルブアルハリ砂漠に設定された約570kmの競技区間を、2日間(48時間)で走破しなくてはならず、初日の進んだ距離に応じてコース上の簡易なピバークに泊まることになり、メカニックによる車両のメンテナンスも受けられません。市販車ベースの競技車には走破すること自体が難しい、文字通り今大会最大の難関となりました。



2024年のダカールラリーは、サウジアラビアで開催されるようになってから5度目。前年の大会からコースの60%が新ルートになり、今大会が過去もっとも厳しい大会になるとコメントされていました。実際、ラリーはその言葉通りに、砂の中に隠れている険しい岩にヒットしダメージを負ったり、タイヤの1/3以上が埋まるような深いわだちで立ち往生してしまったりと多くの困難が待ち受けました。さらに新設された「48Hクロノステージ」は、難所だけを集めたルートが約570kmも延々と続きます。TLCドライバーの三浦選手は「ダカールラリーに携わった過去16年でもっとも過酷」とコメントしていたことから、その厳しさが伝わってきます。

5 過酷

Portrait of Members

TLCのメンバーであるトヨタ車体の社員をご紹介します。
それぞれのメンバーの経歴を、写真とともに説明します。

その他の
メンバーの紹介は
こちら



TLC DRIVER 三浦 昂 AKIRA MIURA

2007年、社員ナビに選抜され、チームに加入し、2016年大会よりドライバーに転向。開発ドライバーとしてランドクルーザーシリーズの開発にも関わる。

もともとつらいことが嫌いで、できればトレーニングもしたくなかったという三浦ドライバー。しかし、2007年からコドライバーとしてTLCに加入してから、**地形や路面状態を読むことに役立つとMTBに挑戦してみた**そうです。初任給のほとんどを泣く泣くMTBの購入資金に注ぎ込んだ三浦ドライバーは、その後レースに出場するほどMTBが大好きに。最近ではMTBに付いているサスペンションが、ランクルのサスペンションをセッティングするときの参考になることに気付いたそうです。



チーム監督 角谷 裕司 YUJI KAKUTANI

ハンドボールの選手として世界選手権に全日本代表で出場した経歴を持つ。27歳からトヨタ車体のハンドボールチームで活躍した後、2014年にTLCチーム監督に就任。前例に捉われないチャレンジングな姿勢でチームを連覇に導く。



高校1年生からハンドボールを始めた角谷監督。投げる、走る、跳ぶ、という身体運動の基礎がすべて含まれているスポーツで身体のトータルバランスが鍛えられると言います。TLCの監督に就任し、**チーム競技という点でハンドボールとの共通点を見出した**そう。目標（勝利）に向けて全員が同じ方向を向き、各ポジション（担当）の役割をしっかりと果たすことで勝利に近づくとくところは、ラリーでもハンドボールでも同じ考え方だと実感したようです。

ダカールラリー2024への道のり ~ラリーの終わりは、次のラリーのスタート~

終わりなき、ダカールラリーへの挑戦

トラブルの連続だったダカールラリー2023。ラリー終了後から「全ステージ完全走破」を目指してダカールラリー2024仕様のラリー車開発が始まりました。その模様を解説します。

車両スペック
はこちら



2023年

5月 ラリー車両の調査・解析

ダカールラリーを終えたラリー仕様のランクルはそのままの状態に日本に送られ、開発関係者のもとへ持ち込まれます。ここではラリー中に不具合を起こしたパーツや改善が必要な部分などを確認。ランクルの開発陣とTLCチームメンバー全員で協議を重ねます。ここで見つかった改善点はラリー車の開発だけでなく、市販車のランクル開発にも反映し、より高品質・高性能なクルマづくりに活かされます。



詳細はこちら



2023年

6月 モロッコテスト

改善点を反映した新仕様のラリー車は、アフリカ・モロッコの砂漠でテストを実施。ダカールラリー2024に向けた改善は、ターボの信頼性向上とタイヤを含めたリアサスペンションの強化に重点を置いたため、その部分が良くなっているか、耐久性に問題がないかを確認するためひたすら走り込みを行い、調整していきます。



詳細はこちら

2023年

10月 モロッコラリー2023参戦

6月のテストを経てさらに鍛えられたラリー車2台。ダカールラリー一番を見据えた実戦テストとしてモロッコラリー2023に参戦しました。しかし、最終日、残り60kmの地点で1台が駆動系のトラブルを抱えてリタイヤしてしまいました。協力会社とともに実物と走行データを検証し、驚異的なスピードで原因を究明。提供してもらった対策案をもとに制御プログラムを書き換え、テストを繰り返し、セッティングが完成したのは何とダカールラリー開始後2日目のことでした!



詳細はこちら





中間休息日

ラリーの折り返し日、競技はお休み

選手はライバルの車両を見に
広大なピバークを自転車で移動したり、
マッサージを受けたり、メカニックは
後半に向けてクルマをリフレッシュ。
後半もがんばるぞ!



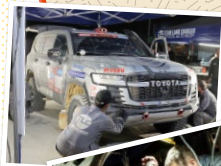
「イテテ...」

順調に進んで日暮れ前に
ラリー車がピバークへ到着。
夕食をとって
エネルギーチャージ!
1マス進む

早朝、ラリー車を送り出し、
次のピバークに着いて
設営が済んだら
シャワーを浴びて、仮眠。
1回休み

無事に車両が戻ってきた! ドライバーは休息し、 メカニックは 車両メンテナンスへ

ラリー車が戻ってきたら、
メカニックがメンテナンスをします。
破損や故障の具合によっては、徹夜で修理も。
砂漠での食事はピバークの食堂で食べますが、
間に合わなかったり、日本食が恋しくなったときは
持参したアルファ米やカップ麺が救世主!



「しみる...」



GOAL

無事完走おめでとう!
みんなで表彰台へ!



メカニックチームは
ピバークを撤収!
ラリー車が到着する予定の
次のピバークへ先回り。
2マス進む

「GO!GO!」

洗濯物を干したら
風で飛ばされた!
追いかけるために
1マス進む

「イネ!」



「さむっ!」



砂でスタック! 抜け出すのに時間がかかる

砂のやわらかさによって
タイヤが埋まり、
抜け出せないことも

砂漠の夜は
気温がグッと下がる。
持ってきた
防寒具にくるまって、
1マス進む

整備用の工具類を
ピカピカに磨いて
1回休み



ゴール間近、あと少し!

荒れた岩場やとがった石が多い路面では
クルマへのダメージやパンクのリスクが!!
2台で協力しながらゴールを目指します。
最後まで気を抜かずがんばろう!

まさかの
アクシデント!
タイヤがパンクして
1回休み



ピバーク設営

ダカールラリーが
行われるのは砂漠のど真ん中。
各チームのテントが次々と設営され、
何もなかった大地に
一晩で街ができあがります



いよいよ ラリースタート!

ドライバーの準備も万端!
レーシングスーツに身を包み、
ヘルメットを装着。
スタートに向けて集中します



「TLC流アウトドアスキル」で
砂漠を生き抜く!

ダカールラリー すざろく



過酷な環境でいかにストレスなく生活するかも、
ラリーを勝ち抜くためには必要不可欠!

どのように砂漠で過ごし、ラリーでのトラブルを対処するのか!?
すざろくを通してダカールラリーを体感しよう!

START

ダカールラリーに向かって 日本を出発!

砂漠で2週間、
キャンプ生活をするために、
さまざまな準備をして
レッツ・ゴー!!

日本からサウジアラビアまでは、
乗り継ぎ含めて13~14時間。
機内食を食べて、仮眠を取る。
1回休み

サウジアラビアに到着! 車両チェックや参加申請など、 やることいっぱい!

スタート地点のアル・ウラに到着したら、
まず車両をチェック。
メディカルチェックや
参加申請、車検など忙しい!





Touch Point in JAPAN

実物の迫力をライブで感じられる！ スマホやパソコンでアクセスできる！

最新情報は
こちら



2月
TLC LIVE on YouTube
(TLC CHANNEL)



ZIP-FM VOICE OF
DAKAR RALLY
(ラリー期間中)



2月
トヨタタイムズスポーツ
(トヨタタイムズ)



J SPORTS
デイリーハイライト
(ラリー期間中)



8月
LAND CRUISER
YouTube LIVE
(ランクルちゃんねる)



TLC LIVE
on Instagram
(随時)



いつかは
ライブで観戦！

サウジアラビア

神秘に包まれた国



中東のアラビア半島最大の国・サウジアラビア。日本の約6倍に相当する国土を持ち、その約80%が砂漠地帯です。厳格なイスラム教の国で、治安が良いことでも有名。公用語はアラビア語ですが、ホテルや海外旅行者向けのレストランでは英語も幅広く通じます。

食文化はイスラム教の戒律で豚肉やお酒を食べたり飲んだりすることはできません。主食は米中心で、首都のリヤドではチキンやビーフ、ラムなどを使った肉料理が多いようです。街中ではファーストフードのチェーン店やカフェも多く、グルメについては日本人が訪れてもそれほど困ることはなさそうです。

近年サウジアラビアでは2021年からF1が開催されていることでも知られるように、モータースポーツ誘致やエンターテインメントの充実に力を入れています。モータースポーツではF1やダカールラリーの他にも、フォーミュラEやエクストリームEなども開催しており、今後ますますの盛り上がりが見込まれます。



日本でいう炊き込みご飯の上に、肉やスパイスをのせた「カブサ」です。カブサは、結婚式やお祝いごとには必ずテーブルに出てくる伝統のある食べ物。スパイスが効いていますが辛くはなく、日本人の口にも合うとのこと。サウジアラビアでは素手でもフォークでも右手を使って食べることがマナーだそうです。



ダカールラリーのスタート地点である「アル・ウラ」近郊のウラ砂漠には、巨大な象の形をした「エレファントロック（ジャバル・アル・フィル）」がそびえ立っています。何百万年もの風雨と水の浸食で形づくられた神秘的な雰囲気は、パワースポットとしても人気があり、夕陽に照らされて輝く辺り一面の黄金の砂も必見です。

トヨタ自動車株式会社
株式会社榎屋
株式会社江口蔵商店
共栄タイヤサービス株式会社
矢崎総業株式会社
豊田機工株式会社
小島プレス工業株式会社
トリニティ工業株式会社
テレンプ株式会社
丸高株式会社
株式会社中外
三井住友海上火災保険株式会社
日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社
中央電気工事株式会社
清水建設株式会社
株式会社トピア

TOYO TIRE株式会社
豊田通商株式会社
関西ペイント株式会社
株式会社デンソー
株式会社小糸製作所
株式会社TDC
豊和化成株式会社
川崎設備工業株式会社
株式会社大林組
株式会社イノアックコーポレーション
新和薬品株式会社
住友商事株式会社
株式会社アイシン
豊田合成株式会社
株式会社ATグループ
白月工業株式会社

Abdul Latif Jameel Motors
トヨタ紡織株式会社
古河電気工業株式会社
東海興業株式会社
株式会社ニッコー
株式会社東海理化電機製作所
ウチダ株式会社
株式会社 きんでん
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
小野電気株式会社
株式会社豊田自動織機
株式会社ジェイテクト
石原商事株式会社
中央発條株式会社
トヨタホーム株式会社
株式会社魚国総本社

メンバーを支えたパートナー企業の皆さま

サントリーピバレッジソリューション株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
カリツー株式会社
株式会社東郷製作所
太平洋工業株式会社
株式会社杉浦製作所
株式会社青山製作所
愛知製鋼株式会社
株式会社コベルク
日本ゼネラルフード株式会社
株式会社ジャオス
株式会社東海特装車
MOTUL Japan 株式会社
PIAA株式会社
エンケイ株式会社
シマツ株式会社

住友電気工業株式会社
三岐通運株式会社
株式会社大気社
エームサービス株式会社
株式会社クリモト
株式会社三五
株式会社セカイズ
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
株式会社エムエス製作所
NTP名古屋トヨベット株式会社
株式会社ユネネットランス
株式会社トヨタ車体研究所
カシオ計算機株式会社
株式会社アライヘルメット
株式会社エンドレスアドバンス
株式会社PEF

タケショウ株式会社
株式会社MINEZAWA
株式会社アウトソーシング
ビューテック株式会社
株式会社メイドー
中川産業株式会社
ニューライトサービス株式会社
株式会社ワイテック
アスカ株式会社
株式会社フジタ
岐阜車体工業株式会社
福岡トヨタ自動車株式会社
ブリッド株式会社
豊通ユニファッション株式会社
株式会社モンベル

TLC オフィシャル
ウェブサイト



<https://www.toyota-body.co.jp/dakar/>

TLC オフィシャル
YouTube チャンネル



<https://www.youtube.com/@dakartlc2138>

TLC オフィシャル
Instagram



https://www.instagram.com/tlc_tal/

TLC オフィシャル
Facebook



<https://m.facebook.com/TeamLandCruiser>